

令和 3 年 (2021) 8 月 27 日  
奈良国立博物館

## 第 73 回 正倉院展

The 73rd Annual  
Exhibition of Shōsō-in Treasures

### 報道発表資料

- [1] 主 催 奈良国立博物館  
協 賛 岩谷産業、N T T 西日本、関西電気保安協会、近畿日本鉄道、J R 東海、J R 西日本、  
シオノギヘルスケア、ダイキン工業、ダイセル、大和ハウス工業、中西金属工業、  
丸一鋼管、大和農園  
特別協力 読売新聞社  
協 力 NHK 奈良放送局、Osaka Metro、奈良交通、奈良テレビ放送、日本香堂、  
仏教美術協会、読売テレビ
- [2] 会 期 令和 3 年 (2021) 10 月 30 日 (土) ~11 月 15 日 (月)  
会期中無休  
開館時間 午前 9 時~午後 6 時  
※金曜日、土曜日、日曜日、祝日 (11 月 3 日) は午後 8 時まで  
※入館は閉館の 60 分前まで
- [3] 会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館
- [4] 観覧料金 観覧には「前売日時指定券」の予約・発券が必要です。当日券の販売はありません。  
詳細は [別紙] をご覧ください。
- [5] 出陳宝物 出陳宝物 55 件 (北倉 9 件、中倉 29 件、南倉 14 件、聖語蔵 3 件)  
うち 8 件は初出陳  
※出陳宝物リストは別紙

## 〔6〕 展覧内容

正倉院は奈良時代に建立された東大寺の倉庫で、<sup>しょうむてんのう</sup>聖武天皇の遺愛の品々を中心とする約 9,000 件の宝物を今に伝えます。正倉院展は、これら正倉院宝物の中から毎年 60 件ほどを選び公開する展覧会で、今年で 73 回目を迎えます。今年も、楽器、調度品、染織品、仏具、文書・経巻など、正倉院宝物の全容をうかがえるような多彩なジャンルの品々が出陳され、宝物が織り成す豊かな世界をお楽しみいただけます。

高貴な素材を惜しげもなく使った螺鈿紫檀阮咸（<sup>らでんしたんのげんかん</sup>円い胴の弦楽器）や、<sup>ごくさいしき もんよう</sup>極彩色の文様が目にも鮮やかな漆金薄絵盤（<sup>うるしきんばくえのばん</sup>蓮華形の香炉台）は、<sup>てんぴようぶんか</sup>天平文化の華やきを今も鮮明にとどめた、正倉院宝物を代表する品です。螺鈿紫檀阮咸は奈良では 25 年ぶりの公開、また漆金薄絵盤は平成 25 年（2013）に出陳されたものと対をなすもので、28 年ぶりの公開となります。

日本で仏教がますますさかんになった奈良時代を象徴する出来事の一つが、東大寺大仏の造立でした。今年はこの大仏の開眼法要において東大寺に献納された品々がまとまって出陳されます。中でも、<sup>はる</sup>遙か西方の地で作られたとされる白瑠璃高坏（<sup>かいげんほうよう</sup>ガラス製の<sup>げんのう</sup>高坏）は、高度な技術水準を示すガラス器の優品として注目されます。また、開眼法要で演じられた楽舞の装束も出陳され、法要の場の華やかな情景が浮かんできます。

そのほか、鳥や獅子の文様を<sup>いろど</sup>彩りゆたかに描いた曝布彩絵半臂（<sup>ばくふさいえのはんび</sup>文様を描いた上着）や夾纈染め（板締め染め）の幡など、様々な技法で装飾された染織品もみどころです。とくに今回初出陳となる茶地花樹鳳凰文縹纈（<sup>ちやじかじゅほうおうもんろうけちのあしぎぬ</sup>文様染めの絹織物）は、その名称のとおり縹纈染め（<sup>ろう</sup>蠟を<sup>ぼうせんざい</sup>防染剤として使う染色技法）の一種と考えられてきましたが、これまでほとんど知られていなかった色染めの技法が使われていることが最近明らかにされ、当時の染色技術の多彩さをうかがわせる研究成果として注目を集めています。

一方、近年、宮内庁正倉院事務所で本格的な調査が行われた筆をはじめ、<sup>すずり</sup>墨・硯・紙といった文房具がまとまった点数出陳されるのも今回の大きな特徴です。これらに注目することで、人々の知識の源泉となり、また国の統治に欠かせない文書行政を支えた当時の書の文化に思いを馳せる機会ともなります。

## 〔7〕 主な出陳宝物

1	北倉 3	<sup>とかりっせい こうみょうこうごう</sup> 杜家立成（光明皇后の御書）	1 巻
2	北倉 23	<sup>こくちょうのしゃくはち もんよう</sup> 刻彫尺八（文様を彫った尺八）	1 管
3	北倉 30	<sup>らでんしたんのげんかん</sup> 螺鈿紫檀阮咸（円い胴の弦楽器）	1 面
4	北倉 42	<sup>かちようはいのはっかくきよう もんよう</sup> 花鳥背八角鏡（花鳥文様の鏡）	1 面
5	中倉 76	<sup>はくろりのたかつき</sup> 白瑠璃高坏（ガラス製の高坏）	1 口
6	南倉 134	<sup>ばくふさいえのはんび もんよう</sup> 曝布彩絵半臂（文様を描いた上着）	1 領
7	中倉 177	<sup>くろがきす おうぞめきんえのちようはながた き げんもつ</sup> 黒柿蘇芳染金絵長花形几（献物をのせた台）	1 基
8	南倉 37	<sup>うるしきんばくえのばん</sup> 漆金薄絵盤（蓮華形の香炉台）	1 基
9	北倉 182	<sup>ちやじかじゅほうおうもんろうけちのあしぎぬ もんよう</sup> 茶地花樹鳳凰文縹纈（文様染めの絹織物）	1 片
10	中倉 20	<sup>かくぞくしゅうしやうそういん もんじよ</sup> 続々修正倉院古文書 第三十二帙 第一巻 〔 <sup>ほうしやいっさいきやうしやうしふでしゆじつちやう</sup> 奉写一切経所経師筆手実帳〕（写経の筆に関する帳簿）	1 巻
11	中倉 37	<sup>ふで</sup> 筆	1 管
12	中倉 45	<sup>えがみ</sup> 絵紙（絵入りの紙）	1 張
13	中倉 49	<sup>せいはんせきのすずり</sup> 青斑石硯	1 基

[解説]

※法量の単位は、寸法＝センチメートル、重量＝グラム

※写真提供＝宮内庁正倉院事務所

1

北倉 3

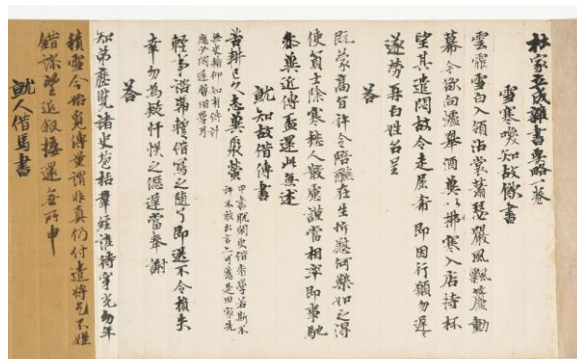
**杜家立成**（光明皇后の御書） 1 巻

[出陳番号 1]

前回出陳年＝平成 5 年（1993）／平成 21 年（2009）（東京国立博物館）

本紙縦 26.8～27.2 全長 706

天平勝宝 8 歳（756）6 月 21 日に光明皇后が東大寺盧舎那仏に献納した品の一つ。献納目録の『国家珍宝帳』によると、これは皇后が自ら筆を執って写した書物であり、同じく光明皇后自筆の染教論などとともに御書箱（出陳番号 2）に収められていた。白、赤、褐、青などの色紙を 19 枚継いで 1 巻とし、力強い筆運びで本文を墨書する。巻末等に「積善藤家」の朱印が捺される。『杜家立成』（『杜家立成雑書要略』）は、中国唐代に編まれた、書状の模範文集集。



2

北倉 23

**刻彫尺八**（文様を彫った尺八） 1 管

[出陳番号 3]

前回出陳年＝平成 20 年（2008）

長 43.7 吹口径 2.3

尺八とは、長さ 1 尺 8 寸の管に指穴が開く縦笛のこと。本品は、『国家珍宝帳』に「刻彫尺八一管」と記載される竹製の尺八である。宝庫に現存する 8 管の尺八の中で最も長く、唐時代の尺の長さでちょうど 1 尺 8 寸に相当する。本体前面に 5 つの指穴を穿つのは古代の尺八に共通する特色であり、現代の尺八より 1 つ多い。表面は、竹の表皮を彫り残すことによって、唐装の女性像や樹木・草花・飛鳥などの華麗な文様が表される。



3

北倉 30

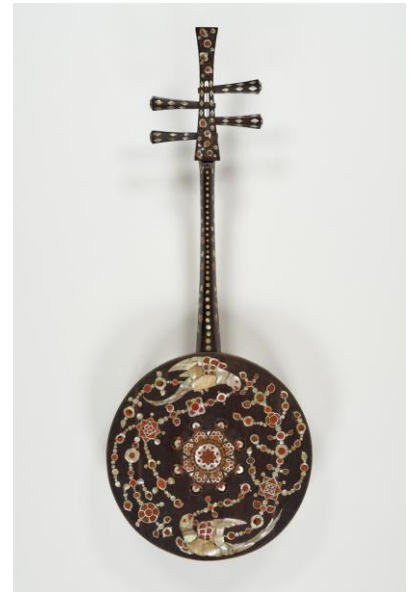
**螺鈿紫檀阮咸**（円い胴の絃楽器） 1 面

〔出陳番号 4〕

前回出陳年＝平成 8 年（1996）／平成 21 年（2009）（東京国立博物館）

全長 100.4 胴径 39.0

聖武天皇の遺愛品。円い胴部をもつ 4 絃の琵琶で、阮咸と呼ばれている。この形式の琵琶は中国で 3～4 世紀頃に成立したとされ、この楽器を愛用した仙人・阮咸にちなんでこの名が付いたとされる。この品は胴部の前面を除き、材はシタンを用いる。撥受けには阮咸を奏でる女性と耳を傾ける 3 人の男女を描いた円い皮を貼る。胴部背面はヤコウガイやタイマイ、琥珀などを象嵌した螺鈿細工で、宝玉を連ねた綬帯をくわえて飛ぶ 2 羽のインコを表す。



4

北倉 42

**花鳥背八角鏡**（花鳥文様の鏡） 1 面

〔出陳番号 5〕

前回出陳年＝平成 19 年（2007）

径 33.6 縁厚 0.8 重 3844.8

『国家珍宝帳』に記載された鏡のひとつ。青銅製で、中国・唐で流行した花形に鑄造されている。鏡の背面には、葡萄の枝をくわえた 2 羽のインコが、首から宝玉を連ねた綬帯をなびかせ、旋回するように表される。鎌倉時代に盗難に遭い大破したが、明治 27 年（1894）の修理の際、銀製のかすがいでつなぎ止められるなどして、現在の姿となった。



5

中倉 76

**白瑠璃高坏**（ガラス製の高坏） 1 口

〔出陳番号 10〕

前回出陳年＝平成 15 年（2003）

径 29.0 高 10.7 重 1231

黄色味をおびた透明ガラスの高坏。製作方法は、飴状に溶かしたガラス胎を吹き竿で膨らませて坏部と高台の原型を作り、両者の接合後、加熱しながら口縁を切り、体部を引き延ばして成形したと考えられる。中近東ないし地中海東岸（シリアやエジプトなど）で作られたローマンガラスもしくは初期イスラムガラスで、当初の形と光彩を今に伝える世界的な名器。



本品は、瑠璃坏（出陳番号 11・12）や水精玉（出陳番号 13）などと一緒に漆小櫃（出陳番号 9-1）の中に収められ、天平勝宝 4 年（752）4 月 9 日の大仏開眼会に奉納されたことが知られている。

6

南倉 134

**曝布彩絵半臂**（文様を描いた上着） 1 領

〔出陳番号 18〕

前回出陳年＝平成 22 年（2010）

現存丈 60 幅 83

半臂は上着の一種で、袖が短く、裾に襷と呼ばれる飾りが付く。本品は身頃（体の前面・背面を覆う部分）に絵が描かれた袷仕立ての半臂。身頃は麻布、襟・衽（前身頃に縫い付けた、襟から裾までの布）・両袖は錦で、腰に臍綴染めの綾の紐が付く、裾には羅の襷の痕跡が残る。麻製彩絵の半臂は正倉院の宝物では他に例がない。後ろ身頃に描かれている、宝相華をくわえて振り向く 2 頭の獅子が目を引く他、様々な鳥や蝶も表されている。残存する色料から、これらの絵は赤、青、緑、黄の諸色や金泥で華やかに彩られていたことがうかがわれる。



7

中倉 177

**黒柿蘇芳染金絵長花形几**（献物をのせた台） 1 基

〔出陳番号 23〕

前回出陳年＝平成 22 年（2010）

縦 33.0 横 51.5 高 9.8

仏に捧げる供物を置くための台机で、白絶の褥（敷物）を載せて用いた。天板は、蘇芳塗を施した黒い筋目の出た黒柿の板 3 材を合わせ、細長い四つ葉のような形に作り、華足と呼ばれる植物をあしらった脚が四隅に付く。側面には、数種類の植物、蝶や鳥が金泥で細密に描かれている。天板の裏に「戒壇」の墨書があるので、東大寺の戒壇院で供物の献納の際に用いられたものと考えられる。



8

南倉 37

**漆金薄絵盤**（蓮華形の香炉台） 1 基

〔出陳番号 30〕

前回出陳年＝平成 5 年（1993）

径 55.6 総高 18.5

蓮の花をかたどった台座。木製の岩座上面に、8 本の柄をもつ銅板を 4 層に重ねて釘打ちし、各柄の先端にクスノキ材製の蓮弁を鋏留めして、その中央に上面が盆形の蓮肉を置く。各蓮弁には、金箔や多彩な顔料を用いて宝相華・鴛鴦・獅子・迦陵頻伽など種々の文様が華麗に描かれる。宝庫には同形同大のものが別に 1 基伝わり、いずれも岩座裏面に「香印坐」の墨書銘があることから、一対で仏前にそなえる香炉の台として用いられたとみられる。





9

北倉 182

茶<sup>ちや</sup>地<sup>じ</sup>花<sup>か</sup>樹<sup>じゆ</sup>鳳<sup>ほう</sup>凰<sup>おう</sup>文<sup>もん</sup>藤<sup>とう</sup>縷<sup>ろう</sup> 絶<sup>ぎつ</sup> (文<sup>もん</sup>様<sup>よう</sup>染<sup>せん</sup>め<sup>め</sup>の絹<sup>きぬ</sup>織<sup>おり</sup>物<sup>ぶつ</sup>) 1 片

[出陳番号 33]

初出陳

縦 42.5

赤味を帯びた茶色の地に鳳凰や草木の文様を表した裂の断片。正倉院に伝来した経緯や用途、製作地は不詳だが、文様の特徴などから8世紀頃の作と考えられている。名称が示しているように、本品は藤縷（蠟を防染剤として使う染色技法）の一種と考えられてきたが、最近の調査で、正倉院の染織品としては従来知られていなかった、アルカリ性物質を利用した全く別の文様染め技法が使われていることが明らかになった。



10

中倉 20

続々修<sup>ぞくぞくしゅう</sup>正<sup>しょう</sup>倉<sup>そう</sup>院<sup>いん</sup>古<sup>こ</sup>文<sup>もん</sup>書<sup>じよ</sup> 第三十二帙 第一卷

〔奉<sup>ほう</sup>写<sup>しゃ</sup>一<sup>いつ</sup>切<sup>きつ</sup>経<sup>きやう</sup>所<sup>しよ</sup>経<sup>きやう</sup>師<sup>し</sup>筆<sup>ふで</sup>手<sup>て</sup>実<sup>じつ</sup>帳<sup>ちやう</sup>〕 (写<sup>しや</sup>経<sup>きやう</sup>の筆<sup>ふで</sup>に關<sup>かん</sup>する帳<sup>ちやう</sup>簿<sup>ぼ</sup>) 1 卷

[出陳番号 38]

初出陳

写経の筆に関する帳簿で、宝亀5年(774)に官營の写経所で作成された。写経所で経文の筆写を担当する経師は、一定量の写経をすると消耗した筆を新しいものと交換することになっていたが、このとき経師自身がそれまでに筆写した經典名と紙の枚数を申告する必要があり、この申告書のことを筆手実といふ。この巻は、同年7月から10月に提出された多数の筆手実を、写経所の事務担当者が貼り継ぎ、管理用の台帳としたものである。



11

中倉 37

筆 1 管

[出陳番号 40]

前回出陳年＝昭和 62 年（1987）

管長 19.6 管径 2.3

筆記用の毛筆。現代の筆は、筆先を毛（獣毛）のみで作るが、正倉院に伝来する筆は、中心に芯となる毛を立ててその周りを紙で巻き、さらに数回にわたって毛と紙を交互に巻き付けて作られている。本品の筆管は表面にまだら模様が表れる斑竹材で、上下には銀が巻かれる。ふたを伴い、尾端は象牙を用いた塔形で裝飾されるなど、美しく飾られた文房具である。



12

中倉 45

絵紙（絵入りの紙） 1 張

[出陳番号 48]

前回出陳年＝平成 15 年（2003）

縦 55 横 100

大判の白紙の表裏に動物文や飛雲の絵柄を描画した裝飾紙 40 枚が軸木に巻かれた状態で伝わってきたものの内の 1 枚。表は飛雲中を駆ける麒麟を赤色色料で描き、裏は全面にわたり飛雲のみを白色色料で描く。描画はいずれも刷毛のような幅広の筆を用い、書の飛白体に通じる自在な筆致を見せる。なお、この紙の用途については明らかでない。



13

中倉 49

青斑石 硯 1 基

[出陳番号 50]

前回出陳年＝平成 19 年（2007）

硯縦 14.7 横 13.5、台長径 30.5 高 8.2

正倉院に伝わる唯一の硯。硯本体は須恵器（陶器）で、それを六角形の青斑石（広義の蛇紋岩）の床石に嵌め込み、木製の台に載せている。台の側面は木画（シタンやツゲなどを

用いた寄木細工）で飾られ、白い縁の部分は象牙を細く切ったものを貼っている。貴重な素材と高度な技術を駆使した最高級の古硯であり、当時の工芸技術の高さに驚かされる。

記録によれば、大仏開眼会の翌年（天平勝宝 5 年・753）に、筆や紙と一緒に「研」（硯）が東大寺に献納されたという。本品はその「研」に相当するものとみられる。



## 〔8〕公開講座

- ① 10月30日（土） 「正倉院の染織品にみる文様染め技法」  
片岡 真純 氏〔宮内庁正倉院事務所保存課整理室員〕
- ② 11月6日（土） 「正倉院の筆」  
杉本 一樹 氏〔宮内庁正倉院事務所宝物調査員（前所長）〕
- ③ 11月13日（土） 「正倉院のガラス器について－白瑠璃高坏を中心として－」  
吉澤 悟〔奈良国立博物館学芸部長〕

【時 間】午後1時30分～3時（午後1時開場）

【会 場】奈良国立博物館 講堂

【定 員】各90名（事前申込制）※抽選による座席指定制です。

【料 金】聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。

【応募期間】9月25日（土）～10月12日（火）必着

### 【応募方法】

はがきかファクスに、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者（1名まで）の氏名、年齢、参加希望日を書いて、以下の宛先にご応募ください。

はがき：〒539-0041（住所不要）読売新聞大阪本社文化事業部「第73回正倉院展」公開講座係

ファクス：06-6366-2370 正倉院展ホームページからもお申し込みいただけます。

### 【参加証の送付】

当選者には、10月20日（水）までに参加証をお送りします。当日必ずご持参ください。

### 【ご注意】

- ・ はがき1枚につき1講座のお申し込みとなります。
- ・ 消せるボールペンは使用しないでください。
- ・ お預かりした個人情報は、本公開講座の連絡のみに使用します。
- ・ 参加証で正倉院展会場に入場することはできません。

### 【公開講座お問い合わせ】

読売新聞大阪本社文化事業部 電話：06-7732-0063（平日午前10時～午後5時）

## 〔9〕お問い合わせ

奈良国立博物館 Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）

電話 ハローダイヤル 050-5542-8600

奈良国立博物館ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>

正倉院展ホームページ <https://shosoin-ten.jp/>

〈交通案内〉

近鉄奈良駅下車徒歩約15分。

または JR 奈良・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ



[10] 広報用画像・記事掲載に関するお問い合わせ先

株式会社ミューズ・ピーアール（担当：大山、末田、藤巻）

e-mail: info@musepr.co.jp

〒107-0052

東京都港区赤坂 9-1-7 赤坂レジデンシャル 770

電話 03-6804-5045 ファクス 03-5785-2627

オンラインリリース

<https://www.artpr.jp/prs/2021shosoin>



【画像掲載にあたってのお願い】

- ・ 正倉院宝物の画像は、宮内庁正倉院事務所より奈良国立博物館で開催する「第 73 回 正倉院展」の広報用として使用許可を頂いているものです。展覧会紹介の原稿作成以外には使用しないでください。
- ・ 画像をご使用の際は、原稿の中に必ず、①展覧会名「第 73 回 正倉院展」、②会場名「奈良国立博物館」、③会期「10 月 30 日～11 月 15 日」、④「宝物名」を明記してください。
- ・ 宝物は、全図で使用してください。改変、部分変更、文字のせはできません。
- ・ 使用後はデータを破棄または消去してください。
- ・ WEB への掲載は展覧会会期中までとしてください。会期終了後はデータを削除してください。
- ・ ご掲載いただいた場合、掲載紙・誌、または媒体（DVD 等）をお送りください。
- ・ 写真提供者を表示する場合は、「宮内庁正倉院事務所」と記してください。

[11] 報道発表資料に関するお問い合わせ先

奈良国立博物館 学芸部情報サービス室

電話 0742-22-4463 ファクス 0742-22-7221

e-mail: joho\_narahaku@nich.go.jp

[別紙]

**観覧料金（前売日時指定券）**

一般券	2,000 円
高大生券	1,500 円
小中生券	500 円
キャンパスメンバーズ学生券	400 円
研究員レクチャー付き鑑賞券	3,000 円 ※詳細は下記
無料指定券 障害者 1 名	無料 ※ただし、無料指定券の 予約・発券が必要
無料指定券 障害者 1 名 + 介護者 1 名	
無料指定券 奈良博プレミアムカード	

観覧には「前売日時指定券」の予約・発券が必要です。当日券の販売はありません。  
当館チケット売場での販売はありません。

**購入方法**

**販売開始日時 9 月 25 日（土）午前 10 時 先着順**

ローソンチケット [L コード：57700]

ローソン及びミニストップ各店舗、電話受付（TEL:0570-000-028）、または公式サイト（<https://l-tike.com/>）

- ・ 最終販売日時は、購入方法により異なります。売り切れ次第販売を終了します。
- ・ 前売日時指定券には販売枚数の制限があります。各時間約 500 名。
- ・ 1 回につき 4 枚までの購入が可能です。ただし、無料指定券を予約できる枚数は 1 回につき 1 枚までです。
- ・ 購入後の日時変更及び払い戻しはいたしかねますので、ご注意ください。
- ・ 団体料金の設定はありません。
- ・ 高大生券・小中生券を予約・発券された方は、観覧当日に学生証などの提示が必要です（小学生を除く）。ご提示いただけない場合には、通常料金（一般券 2,000 円、高大生券 1,500 円）との差額をお支払いいただきます。
- ・ キャンパスメンバーズ学生券・無料指定券を予約・発券された方は、観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です。ご提示いただけない場合には、通常料金（一般券 2,000 円、高大生券 1,500 円、小中生券 500 円）との差額をお支払いいただきます。
- ・ 障害者手帳またはミライロ ID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者 1 名を含む）・奈良博プレミアムカード会員（1 回目及び 2 回目の観覧）は無料ですが、**無料指定券の予約・発券が必要です**。なお、未就学児は無料指定券の予約・発券は不要です。

#### 入館時間区分

- ・ 前売日時指定券購入時に入館時間（開館時間から原則 1 時間毎）の指定が必要です。最終入館時間は午後 5 時、金・土・日曜日及び祝日は午後 7 時です。

#### 研究員レクチャー付き鑑賞券

- ・ 指定日時 ①11 月 4 日（木）10 時～、②11 月 4 日（木）14 時～
- ・ 定員 各回 90 人
- ・ 場所 奈良国立博物館 講堂
- ・ 特典 奈良国立博物館研究員による解説（約 30 分）を聴講後に展示室で鑑賞いただきます。「正倉院特別展観目録（第 1 回正倉院展復刻版）」（B6 サイズ、非売品）を進呈します。ただし、引換は当日に限ります。

#### 入館・観覧に関して

- ・ 指定された日時以外の入館はできません。
- ・ **各時間枠の入場開始時間は大変混雑いたします。本展は入替制ではありませんので、前売日時指定券に記載された入場可能時間内に分散してご来館いただきますようお願いいたします。**
- ・ **入館待ち列にお並びいただけるのは、入場開始時間の 10 分前からです。**それ以前に来館されても、列にお並びいただくことはできません。
- ・ 指定された時間内であっても、展示会場内の混雑回避のため、入館をお待ちいただく可能性がございます。
- ・ 入館前に検温を実施いたします。また、マスクの着用をお願いいたします。
- ・ 本展は入替制ではありませんが、展示会場内の混雑を避けるため、入場後 1 時間程度を目処に鑑賞をお願いいたします。
- ・ **前売日時指定券では、名品展（なら仏像館・青銅器館）を観覧することはできません。**ただし同券をお持ちの方は、名品展（なら仏像館・青銅器館）を割引料金〔一般 200 円（通常 700 円）、大学生 100 円（通常 350 円）〕で観覧することができます。なお、高校生以下及び 18 歳未満の方・70 歳以上の方・障害者手帳またはミライロ ID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料です。

#### 今後の状況に関して

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大状況により、開催内容を変更する場合があります。

## 「第73回 正倉院展」出陳宝物画像の使用について（報道発表用）


- 画像の周辺に必ずキャプション（宝物名）を記入してください。
- 宝物画像の上に文字を載せないでください。
- 宝物の切り抜き、余白部分のトリミングは問題ありませんが、宝物部分の加工・改変はしないでください。
- 奈良国立博物館が主催する「第73回 正倉院展」であることが明確にわかるような内容・記事にしてください。  
（展覧会名「第73回 正倉院展」・会期「10月30日～11月15日」・会場「奈良国立博物館」・宝物名を明記のこと）
- 確認のため事前に校正刷り等を下記まで送付してください。  
株式会社ミューズ・ピーアール（担当：大山、末田、藤巻）  
info@musepr.co.jp  
〒107-0052  
東京都港区赤坂9-1-7 赤坂レジデンシャル770  
TEL：03-6804-5045 FAX：03-5785-2627
- 正倉院宝物の画像は、宮内庁正倉院事務所より奈良国立博物館で開催する「第73回 正倉院展」の広報用として提供及び使用許可を頂いているものです。今回の原稿作成以外には使用しないでください。
- 使用後は画像データを必ず破棄または消去してください。
- 画像データの第三者への譲渡・供与・また貸し等をご遠慮ください。
- 写真提供者を表示する場合は、「宮内庁正倉院事務所」と記してください。

## 「第73回 正倉院展」出陳宝物画像の使用について（旅行会社用）

ツアーパンフレットなどに掲載される場合は、次の点に特に御留意ください。

奈良国立博物館が主催する「第73回 正倉院展」であることが明確にわかるよう、独立した紹介スペースを取ってください。

（例）

コース番号：00-XXXX	第73回 正倉院展	 宝物名
第73回 正倉院展と 奈良公園散策	会期：令和3年 10月30日～11月15日 会場：奈良国立博物館	
おとなおひとり 2X,000円～3X,000円		
催行予定日	コース日程	
約款など.....		

- 正倉院宝物の画像を使用する場合は、上図の例のように、正倉院展の紹介コーナーの中に画像が入る、という形をとってください（コーナーのデザイン、大きさ、場所等は各社様の仕様で結構です）。またその際に、コーナー内に、展覧会名「第73回 正倉院展」・会期「10月30日～11月15日」・会場「奈良国立博物館」・宝物名、を必ず明記してください。
- このような形がとれない場合は、奈良国立博物館の外観画像をご利用ください。
- なお、観覧には「前売日時指定券」が必要です。当日券の販売はありません。